

# 新潟県

# 公民館月報

昭和61年4月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟（0252）24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 佐藤 眞武

編集人 事務局員 上村 裕二郎

【定価1部 120円 年共 1,440円】



## 聖蹟寺遺跡

この聖穴住居は昭和三十三年六月、中学校校舎建設の際、工事現場から発見されたもので、隅丸方形の平面で、地面を掘ってその上に屋根を置いたものである。

縄文時代晩期つまり今から二千五百年前のものと推定されている。上屋は、東京大学教授太田博太郎博士の指導のもとに、浦川原中学校社会クラブの生徒たちによって復元されたものである。柱穴はこのように側壁から内側に入っているのので周りに壁を立てず、地上に屋根を伏せた形であり、周囲から梁にもたせかけた柱は放射状に配置されている。最上部の屋根は短い棟をおいた茅葺き、葺き下ろしの寄せ棟造りですべて藤づるでしばって作られている。

内部は土間で、中央に石組の炉が切られ、三・四人ぐらゐの家族が寝起きしていたであろう。郷土の文化財として永く保存したいものである。

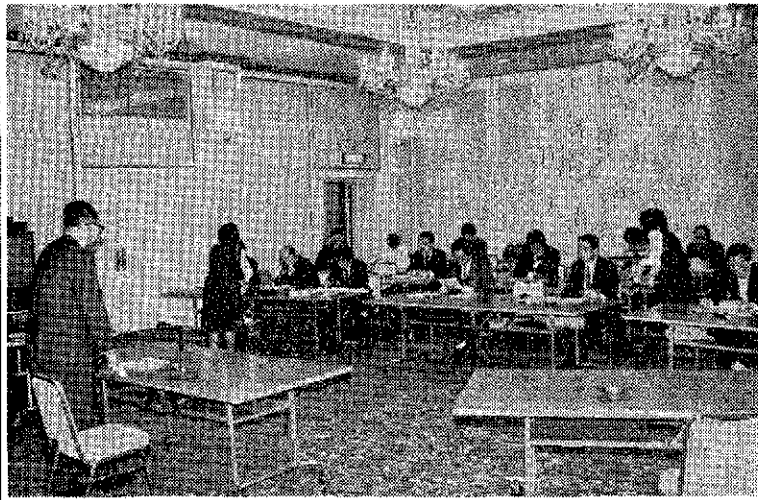
文 浦川原村教育委員会  
絵 同村 社会教育委員  
横山 嵩氏

# 郡市 事務局長会議開く

## 情報交換と研修と

三月二十七日、新潟市の白山会館で昭和六十年年度郡市公連事務局局長会議が開かれた。この会議は、従前は県公連主催連絡会議として実施して来たものである。県公連の新年度の

事業計画について理解を求めるとともに、意見を聴取して今後の県公連の諸活動に活かすこと、さらに各郡市公連相互の情報交換することにより、郡市公連のあり方を改善していくことという目的で開かれたものである。



会長 あい さ つ

郡市公連事務局局長会議は、午後二時から、研修の一つ、一時間半にわたり新潟大学教授吉川弘光先生から「公民館職員の専門性について」と題する講義をお聞きした。その趣旨を紹介すると、「昭和二十四年に教育公務員特例法が制定された。ついで同じ二十四年に社会教育法も制定された。この二つの法によって社会教育主任の専門職としての位置づけがなされた。しかしながら専門性の内容については規定していない。公民館の館長・主任が法の上で明確にされるようになったのは、さきほど十年後の昭和三十四年のことである。しかし、ここでもまた専門性についてはいまだ明確なままだである。

### 公民館職員の専門性について

#### 新大吉川教授の講義

今日、学者の間で公民館職員の専門性について種々の論がなされているが、それぞれがそれぞれの特色を持っており、一長一短を有している。

私の主張したい公民館職員の専門性の内容は、香川大学の安原昇教授の論に近い。氏の社会教育主任の専門性の内容については、

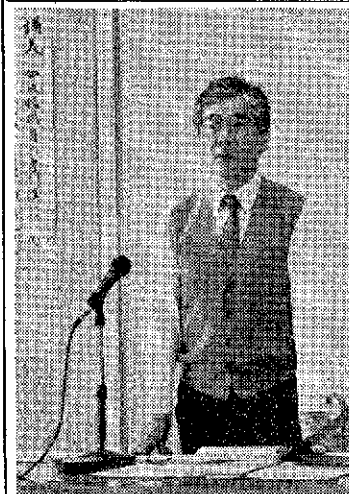
- ① 社会教育行政計画の立案
- ② 学習計画の立案と展開
- ③ 学習課題の把握と社会調査の技法
- ④ 集団運営の技法ならびに団体運営の技法

⑤ 学習指導者・有識指導者の活用  
 ⑥ 社会教育の評価  
 以上の大項に要約できる。それでは、公民館職員の専門性というところ、このうち①を除く他のすべてが必要内容である。社会教育主任と公民館職員とが極めて類似した専門性を持つのは当然のことである。社会教育主任が教育行政の職員であるのに対し、公民館主任は教育機関の職員である立場を

極力緩和の度合を考慮して整理された。公民館職員のための研修事業として表現してほしい。公民館の現状は、職員の異動が頻りに至り度で一般部局(転出)なので、一つには、専門性に関する研修の機会を設けてほしい。二つには、短期間異動のデメリットを関係筋に理解してもらって働きかけをしてほしい、という要請が出された。

午後情報交換では、高杉普祿(巻町)渡辺裕(白根町)中村秀雄(雄(相州町)大津庄吉(見附市)の四氏から、貴重な資料提供と発言があった。

なお、郡市公連事務局局長会議と事業名を決定した趣旨は、県・地区の公連と単位公民館との間を結ぶ重要な役割を持つのが郡市公連である。このことから、郡市公連と原公連との間の、あるいは各郡市公連相互間の密接な連携をとる必要から、郡市公連の事務局長が集い情報交換や研修を深める機会としたものである。



講演中の吉川教授

### 集 募 (絵紙表紙)

公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中で絵をよそする人の作品など、なるべくなび位置で書かれたもの。絵の内容は、名画、旧跡、文化財などのほか、表紙をさわいものであればなんでも結構です。説明文は四百字程度をお願いします。

投稿歓迎  
 感想文でも結構、折にふれて気軽にペンを走らせてください。採用文には粗品を差し上げておきます。

編集部



# 広報活動の諸問題と今後の在り方

2ヶ月に1回発行している。

○チラシ、ポスターの活用……人を集める広報活動をねらいとして視覚に訴えるチラシづくりにつとめ、またポスターでは特にデザインに気をつけるようにしている。

○アンケート調査……公民館を理解してもらうため実施。配布786、回収652、回収率83.0%(2年に1回実施する計画)

○その他の広報活動(情報提供のために努力していること。)

- ・市民の友(市広報紙)の利用
- ・教育広報那覇の発行
- ・ラジオ放送(毎週1回)
- ・学社連携(PTAとの協力)
- ・企業への啓発(チラシなどを置く)
- ・街頭でのチラシ配布

など

## (4) 今後のあり方

○公民館職員の資質の向上に力をそそぎ広報のあり方について各種研修会、サークル等で研鑽に努める。

○公民館案内に創意・工夫を凝らす。

○久茂地ジャーナルの毎月発行への努力と編集方法の見直しのなかから、親しまれる公民館の演出に果たす広報活動のあり方を前向きに探っていく。



## II 質疑応答

### 1 発表1に対する質疑

- (1) 広報紙の配布はどのようにしているか。
- (2) 広報活動の予算はいくら組んでいるか。
- (3) 市(町・村)の広報紙と公民館報との係わりはどうなっているか。
- (4) 広報紙が一方通行に終わってしまっている理由は何か。またその解決策は。
- (5) NTT公民館案内情報サービスとはどういうものか具体的に教えて欲しい。
- (6) 館報は読まれているのか。

### 2 発表1に対する応答

- (1) 自治会長さんを経由している。自治会のないニュータウンはボランティアの主婦が配布している。
- (2) 特別に組んでいない。紙代だけである。

(3) 市の広報紙には中央公民館の事業を毎号掲載している。地区館は館報だけで市の広報紙にはのせていない。

(4) 大きな問題として、職員体制とか予算の関係があるが、やはり第一に住民に対するアプローチの不足と各種事業の質(魅力があるかどうか)があげられると思う。

(5) 主婦、青少年団体向けの情報提供。中学生・高校生への対応が今後の課題。

(6) 読んでいないようでも結構読んでいる。

### 3 発表2に対する質疑

(1)~(4)までの質疑のうち(1)~(3)までは発表1のものと同じなので記述を省略する。

(4) ラジオ放送による情報提供について。

### 4 発表2に対する応答

(1) 公民館の職員が団地・デパート・会社などをオートバイで回り直接届けたり新聞折り込みで取次店に協力を依頼している。各戸別には配布していない。

(2) 特別には組んでいない。流用してまかっているのが実状である。

(3) 市広報紙「市民の友」へ主に4館の事業を中心に全体計画を年度始めにのせ、それ以後は3ヶ月に1回情報をのせている。

(4) 毎週1回「市民の時間」の中で公民館事業についての情報を流している。

## III 討 論 内 容

- 1 読む習慣のない人に呼びかける広報活動をどのようにしたらよいか。
- 2 館報のタイトルにも、一工夫必要なのでは。
- 3 少ない予算をいかに活用して広報活動を充実させるか。
- 4 住民の要望やアイデアをどのように広報活動へ取りあげていくか。

## IV 助言者のまとめ

- 1 機械化による人間疎外が進んでいる昨今、人間と人間の心の交流を支えていくために広報活動の新しい方向があるのではないか。
- 2 広報はキャッチボール式であること。住民の反応がないようでは広報の意味がない。
- 3 住民のニーズに応じた広報活動や学習相談を展開することが大切である。
- 4 広報活動・情報提供で学習意欲のない者をどう掘り起こしていくかが今後の課題。
- 5 ニューメディアに対する理解を深める。
- 6 住民同士のふれあいを深めるためのミニコミ・ロコミを大切にす。
- 7 関連教育施設や民間の広報機関との連携を深め、より早く正確な情報を提供する。

# 第8回全国公民館研究集会分科会から

## 情報提供

討 議 題 ◦ 情報提供・広報活動を推進するための課題  
◦ これからの具体的実践方策について

助 言 者	大東文化大学教授	田 代 元 彌
司 会 者	静岡市長田公民館館長	伊 藤 典 男
基調発表者	1. 和歌山県橋本市立紀見地区公民館館長補佐	上 田 敬 二
	2. 沖縄県那覇市久茂地公民館主査	平 良 豊 宏

### I 基 調 発 表

#### 1 発表1—橋本市紀見地区公民館における情報提供・広報活動の諸問題

##### (1) 橋本市の概要

大阪から南へ約40キロ、高野山のみもとにひろがる人口4万1千人のニュータウン。ここ4～5年で急速な人口の増加をみている。現在公民館は、中央公民館と分館が4館という状況であるが、紀見地区公民館はニュータウンの中心部に位置している。

##### (2) 紀見地区公民館について

職員が1.5人(館長は非常勤・館長補佐=主事)という状況で活動に支障をきたすことが多かった。そこで現在は、各自治会(14)の会長さんに公民館運営委員を推薦してもらい、ボランティアという立場で企画・立案・運営に協力してもらっている。

##### (3) 手作り館報

発行5年目。B4更紙に手描きの原稿をプリントしている。各戸(3,300戸)に毎月配布。内容は館の行事・教室・講座の案内・参加呼びかけが中心で、送り手の一方的なものに終始している。

##### (4) 住民が行事を知り参加する動機

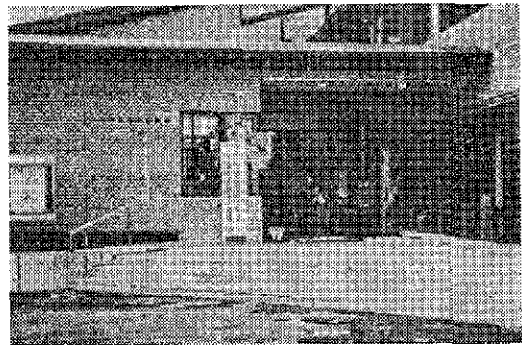
- 広報紙(館報)の役割
- 公民館運営委員の働きかけ
- 住民のロコミ
- これまでの活動実績

館利用者や行事への参加者に、「行事を何で知ったか」聞いてみると、やはり「館報で知った」が圧倒的に多い。「館報を読んでいますか」に対しても「見る」・「目にとまる」という答えが多い。「手作り」のよさ→お粗末な作りだが親しみが持てる。カット、イラストが入り、見やすい・ながめられやすいという効果がある。

##### (5) 今後のあり方

広報の役割は、言うまでもなく、公民館と住民、また住民同士の情報交換のパイプ役となることである。送り手の一方通行にならないように、相互通行のプロセスを大事にしなくてはならない。そのためには各種広報活動を通して次のことをしなければならない。

○住民の生涯学習にかかわる必要課題や要求課題を探る。



- 各種事業の具体的な評価が得られるようにする。
- 住民の意見やアイデアを取り上げる。
- 隠れた有能な人材の発掘につとめる。
- 住民の自主的な活動に結びつく情報を、さらに収集・整理して提供していく。

#### 2 発表2—那覇市久茂地公民館における広報活動の諸問題と今後の在り方—

##### (1) 那覇市の概要

沖縄本島の南部、東支那海に面した人口30万8千人の県都である。沖縄の政治・経済・文化の中心として発展しており、近年我が国の交通通信の南玄関として重要な役割を果たすようになってきている。

##### (2) 公民館の概要

中央公民館と分館が3館という状況であるが、久茂地公民館是那覇市の中心部にあり、その中に市の人口の1/3をかかえている。昭和41年に沖縄少年会館として建設され昭和54年に公民館として様変わりしたもので、児童館、プラネタリウムほかを併設した複合施設である。今年の4月から利用団体連絡協議会を発足させ、公民館を有効に活用している。主査1人、主事4人という職員体制である。

##### (3) 公民館における広報活動

○広報紙の発行……中央公民館がまとめて4館の「公民館だより」を年4回、「公民館のあゆみ」と「公民館の事業」を年1回、そして「ふれあい文集」を4館がそれぞれの立場で随時発行している。また、久茂地公民館独自のものとして、情報提供の館報「久茂地ジャーナル」を



# 実践記録シリーズ

(8)

## 伝統行事を連帯の核に

### 地区民総参加の分館活動

公民館活動実践記録の原稿を募っています。活動の苦心談・成功例などご送稿ください。

#### 加茂七谷分館



地区民協力の成果

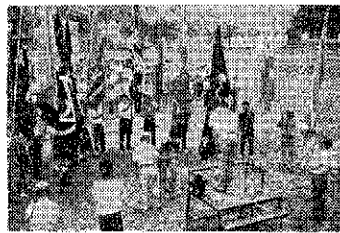
我が七谷分館の地域は、加茂市の東南部に位置した粟ヶ岳を源とする加茂川の上流域で、緑豊かな山々によって形成される七つの谷々から流れる支流に沿って開けた耕の地に集落が散在している静かな純農の地域である。

活動の場として専用できる独立した建物はないが、地元の中や郵政集会所を舞台として、先人の築いた旧き伝統の下でしっかりと根を張った公民館活動が続けられている。

加茂市社会教育計画の基本方針にそって、各種事業を企画実施しているが、中でも七谷分館の主権する地区民運動会は他に誇れる素晴らしい伝統行事である。

この地区民運動会は歴史が古く戦前から青年会が部対抗として実施していた。

一万米の勝者の子供達にとって憧れの的であり正に英雄的存在であった。沿道で郵政民が繰出で声援したあの情景は今でも鮮明に



厳肅なセレモニー

記憶している。

戦時中一時は下火になったが、戦後間もなく新生青年団となってこの活動を部対抗の形で継続し、幾つかの記録も作り郡大会や県大会予選の側面をもつていた。特にマラソンでは県大会において優勝し、全国大会まで出場した優秀な選手もいた。

このような歴史的な背景の中で実施される地区民運動会は、もうしても競争種目が主流となり、レクリエーション的な種目が敬遠さ

れたことの実実であった。ここ数年、関係者の間で種目の見直し論が出され遂時内容も変わってきた。

今年には競争種目からレクリエーション種目まで二十七種目が計画された。また長距離の千五百・三千や走り高跳びがなくなった。これは昨今の社会の反映であろう。ちょっと淋しい気がする。

運動会の企画は五月から分館推進委員と八連帯地元委員の合同会議に始まり、前年度の反省から競技種目を検討し、更に参加範囲等特に年寄り子供や婦人参加の種目には真剣な討議が重ねられ、最後には七谷隣協と推進委員の合同会議において決定される。

それは直ちに七行政区におおられ監督や選手が過はれ本格的に準備や練習が始まるのである。年に二回地域公民館が一堂に集い、ふれあいの輪を広げ、親睦を深めるこの祭典こそ公民館活動のさいたるものである。

一日の仕事のあと夜更けまで練習を重ねて漸く本番に達し、当日は早朝から役員の仕事で会場が設けられる。一方では応援席が行政区毎に大会旗を掲げながら色とりどりの形で設けられる。

いよいよ開会である。永い歴史と伝統の上に立って入

場行進は行政区毎に大会旗を先頭に堂々と行われ、実在歴なものである。力強い選手宣誓の下で競技が開始される。トラックでは百・二百・四百米や、混合リレーのほか、アベックレースやたばコレ

ース・パン食い・魚つり等レクリエーション種目も加わり熱戦のうちに展開されていく。何んといってもこの大会を盛り上げるものは、チーム力を発揮する玉入れと綱引き競技であろう。この時は選手も応援者も一番熱が入る。最後は伝統行事にふさわしい行政区の覇者を決する対抗リレーが、最高潮に達した熱気の中で行われ幕を



老若男女一体の綱引レース

閉会後は盛大な夜宵会が各行政区毎に区民総参加で行われ、新たな年に向け記録更新の策や珍プレーを肴にして和気あいなの中で歓談される。

地区民運動会の実績はその年の公民館活動運営に大きな役割を果たす。老若を問わず全地区民が参加し、ふれあいと連帯感を醸成し、やがて地域活動や学習活動の基盤となるのである。

加茂市公民館

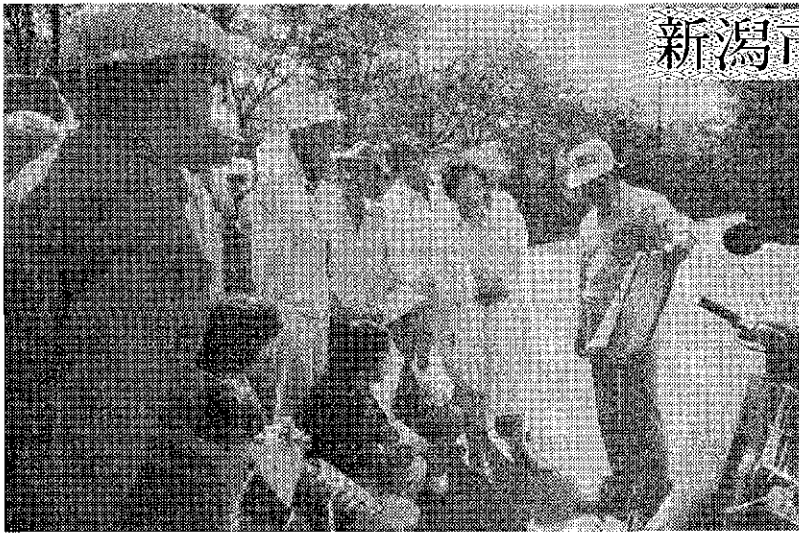
七谷分館主宰 鶴巻慎二

# 新潟市中央公民館

## 描く楽しみ美術サロン

### 団体の連合体から自主団体へ

美術グループに限らず、団体やグループにあっては、ややもすると閉鎖性が強くなりがちである。そんな中において、描く喜びを味わうことのみを目的として、開放的な自主グループが育ちつつある。



写生会旅行のひとコマ

**発足の経過**  
美術サロンの発足は、八年前、公民館の「美術団体同志の交流と親睦を図り、美術をとおして市民との交流をしたらどうか」という呼びかけで始まりました。最初の事業は写生会でした。美術関係団体の有志が集まり運営方法について相談した結果、事業名「美術サロン」、講師「近松一雄先生、行先「東条谷」という内容でした。その後数年は春秋二回実施してきましたが、五年前、自主団体として活動することになりました。代表には美術サロンの世話人であり、当時発足した中央公民館使用団体連絡協議会の副会長兼同協会の美術部会長の立場でもあった私が今日までお手伝いしてきた次第です。

**活動方針**  
美術サロンの美術活動に対する考え方は、公費使入費を目標として日夜努力、苦勞して自費に達する喜びを味わう人とは異なり、絵を描くことにより生活の幅を広げ、楽しく共に学術することに力を注ぐことが重要かと思っております。また、美術サロンは各グループが閉鎖的になることなく、ふれ合いの場を多くするための場づくりでもありと考えています。

**事業内容**  
美術サロンの活動内容を紹介します。  
① 発表の場をできるだけ多くするため、中央公民館談話室に各グループの作品を順番に展示し、また、一部を市役所市民課のロビーに展示しています。  
② 春秋に電車、バスを利用して

の日程の早起き写生会を実施しています。58年は秋の津川へ53名、59年は春の川崎へ雨天にも関わらず26名、秋は八木山へ10名とそれぞれ参加しました。そして以前から実施していた5月から9月までの早起き写生会を昨年からは一般の市民の参加を募って毎月第一日曜日に実施しています。  
④ 昨年11月から4月までの予定で始めた人物写生会は、各グループが実施するのが難しいので毎月第一日曜日に実施しています。通年としてはどうかとの意見もありましたが、冬期間のみには、半年毎に油絵・水彩画教室を開催しています。  
以上を楽しくむ人が一人でも多くなることを願って、常に誰でも気軽に描ける環境作りを目指したいと思っております。

**今後の課題**  
これからの美術サロンとしては、現在やっていることを充実させること、公民館の協力を得て各種美術関係教室、あるいは（仮称）「新緑を眺める」等を発足させて、楽しく絵を描く環境作りを力して行いたいと考えています。  
(新潟市中央公民館 早川久二)

## プロフィール

三条市中央公民館副参事  
飯塚 知 夫氏 (37歳)



三条市に隣接する米町大面の出身で、農家の長男として生れた。加茂農林高等学校を卒業後、昭和四十二年四月に三条市役所税務課に奉職。以て四十二年十一月市農業委員会、五十二年四月市教育委員会教育課勤務となり、青少年教育、文化行政を担当。その間全国青年大会代表として五十二年女子ソフトボール選手引率、五十三年には女子バレーボール選手団を引率するなど青少年教育活動に奔走。五十四年三条市で青年大会を開催した時は事務局を担当し、大会を成功裡に収めるなど卓越した手腕を発揮した。

五十五年四月から本成寺公民館の主任として本成寺地区の社会教育振興を図るため、生涯教育活動と積極的に取り組み、なかでも青少年活動の活性化を図るために、地区ソフトボール大会を企画。さらには、親子ソフトボールを考案し、青年と小中学生が一緒に楽しむソフトボールができるようなルールで大会を企画し、青少年健全育成の成果を挙げた。なおこの親子ソフトボール大会は現在も引き続き行われている。

五十九年四月、中央公民館館長として配属替え、当市公民館活動の中心的リーダーとして活躍している。五地区公民館職員との連絡提携をすすめるが、地域住民のニーズに答えるべく、旺盛な行動力と柔軟な頭脳による回覧させ、新鮮なアイデアを生み出して、生涯教育推進に情熱を燃やしている。

**仕事面から**、酒を飲む機会もあり、人の面倒見も良くたゞ、ますます人の心を和ませる雰囲気にしてしまおうのは彼の人の柄の長さである。

**家庭に**、母親と奥さんと弟二人の五人家族である。仕事の性質上、土曜日曜の出勤や夜勤等で帰宅が遅くなることも多くあるが、健康に留意して一層の活躍を願いたい。(三条市中央公民館館長 川村新治)

# 今年度事業始まる

## 県社会教育課関係事業

### トピックス

「市町村新任社会教育関係職員研修会」「県青年の丘シリーズ」「野外活動指導者研修」「自然に親しむ親子の集い」等の事業が、県社会教育課・県立青少年研修センター・県少年自然の家主催で開催される。なお、国立能登青年の家では全国青年団休指導者研修が実施される。それぞれの主催者では市町村公民館関係者の積極的な利用を望んでいる。

★市町村新任社会教育関係職員研修会(前期) 参加対象者 青年団休指導者等 申込み・問い合わせ等 市町村の新任社会教育職員を対象に、社会教育行政の基礎、基本について研修するものです。  
上越地区 5月14日(水) 15日(木)  
中越地区 5月30日(金)  
長岡市・長岡総合庁舎  
下越地区 5月9日(金)  
新潟市・新潟地区合同庁舎  
佐和田市・佐和田中央会館  
中込等 当該教育事務所社会教育課に申し込んでください。  
☆全国青年団休指導者研修(前期)  
期月 5月13日(水)～17日(日) (4泊5日)  
会場 国立能登青年の家

第三回 7月12日(土)～13日(日)  
第四回 9月6日(土)～7日(日)  
第五回 10月11日(土)～12日(日)  
第六回 11月15日(土)～16日(日)  
第七回 12月13日(土)～14日(日)  
会場 県立青少年研修センター  
西蒲原郡登野田大字越前浜  
(電話)〇二五六―七七二二  
(一)

対象 県内在住の青年・青少年活動の指導者・施設職員・ホラン  
このたびは本田前事務局長の後任として大任を託り受けさせていただきます。本田氏のようには公連事務には通暁しておりませんが、優れた手腕も力量も持たせてはおりません。ただあるのは、「心は若者の如く」と誓っていることです。若者はたゞ種々かもしません。早業まごいになるのではないかという不安の中で責任の重さを全身で感じております。皆様方の支援と協力を期して参りたいと思っております。

☆学校生活を豊かにするついでに ―野外活動指導者研修(前期)―  
健全な青少年の育成を旨とし、明るく楽しい豊かな学校生活を築くため、野外活動の理論と実践を研修するものです。  
期日 5月16日(木)～17日(金) (1泊2日)  
会場 県立青少年研修センター  
期日 5月3日(土)～4日(日) 1泊2日

☆自然に親しむ親子の集い  
県少年自然の家では、自然との触れ合いを通じて、青少年の情操や社会性を養い、たくましい身体を作ることを目指し、年間四回の自然に親しむ親子の集いを行います。  
期日 5月30日(木)まで  
申込み 県立青少年研修センター  
経費 二千三百円(食費を含む)  
会場 県少年自然の家  
(電話)〇二五四―四六一八  
(〇四)

対象 小・中学生とその親子  
主な内容 探検会、野外活動(雨の日は創作活動)など  
経費 二千円(食費を含む)  
申込み 県少年自然の家(電話)問い合わせ、その趣意を述べたい。定員になり次第締め切ります。

### 心は若者の如く

新事務局長 上村浩二郎



年ごと伸びた時代でした。で勢に定着してしまうのではなからずから市町村では驚くべき大躍進を遂げようとするかどきどきに愛いたる風潮がありました。また一方では、急激な階級構造の変化、ひいては社会構造の近代化を目撃する時代でもありました。それらにそれぞれ対応する公民館の役割や、それが担うべき役割も変わって

今日、公民館は、十二分に活躍できるように、公民館職員相互の連携の絆を(時には市町村を超えた絆を)強めることが重要でありましょう。県公連の事務局はそのために働かなくてはならないと考えています。そして「古く」とお思いでしょうが、私自身、出向く事務局、にしたいと思っております。

後継者が急死した。墓雪の後の雪はまだまだ各地に見えるところかと思いますが、濃霧に春がやってきました。春とともに人事異動の時期でもありますが、それぞれの公民館では人事交流がなされたところもあつかうと思っております。本会では、会長が藤原武氏(新潟市中央公民館)、副会長が田中伸氏(長岡市中央公民館)、事務局長が田中伸氏(長岡市中央公民館)の三氏が揃って、業務に当たります。また事務局長の交代については先自身で紹介したとおりです。本会を支われる方々には御礼と敬意を表し、お田代になった方々には、清新の風吹を与えたいと思っております。

### お知らせ

今月号から八面を「トピックス」欄にしました。横文字で恐縮ですが、広範囲にわたる「論議・話題」といった意味だと説明してあります。

### あとがき

被前線が急死した。墓雪の後の雪はまだまだ各地に見えるところかと思いますが、濃霧に春がやってきました。春とともに人事異動の時期でもありますが、それぞれの公民館では人事交流がなされたところもあつかうと思っております。本会では、会長が藤原武氏(新潟市中央公民館)、副会長が田中伸氏(長岡市中央公民館)、事務局長が田中伸氏(長岡市中央公民館)の三氏が揃って、業務に当たります。また事務局長の交代については先自身で紹介したとおりです。本会を支われる方々には御礼と敬意を表し、お田代になった方々には、清新の風吹を与えたいと思っております。